

日本科学協会出版記念セミナー

科学と宗教 —対立と融和のゆくえ—



2018.5.19開催セミナー 実施報告書

2018.5.22

実施概要

2018年5月19日（土）13：00～16：30、日本財団ビル1階パウールームにて、出版記念セミナー「科学と宗教」を開催しました。「科学と宗教」について勉強しようという熱意ある方が、113名（申し込みの88%以上の方）ご出席くださいました。

本セミナーは、日本科学協会が研究者の人材育成を目的に立ち上げた科学隣接領域研究会が取り上げる3領域「宗教」・「倫理」・「アート」の第一弾となった「宗教」についての研究成果をまとめた書籍「科学と宗教～対立と融和のゆくえ～」の出版を記念して、より内容についての理解を深め、本書を多くの方に読んでいただくために開催しました。

セミナーは書籍の監修である金子務氏（大阪府立大学名誉教授）がコーディネーターを務め、11名の執筆者の中から、伊東俊太郎氏（東京大学名誉教授）と植木雅俊氏（NHK文化センター講師）をお呼びして、本には書ききれなかった内容や新しい研究成果を追加して、じっくりお話しいただきました。

コーディネーターと講演者による鼎談は、質問票を会場から回収し、講師が回答する形で活発な議論が交わされ、本を読むだけではわかりづらい、「科学と宗教」についての知識を深める機会となりました。

出版記念セミナー

科学と宗教

—対立と融和のゆくえ—

これから世界に羽ばたく研究者の方々に贈る必読の書

11名の執筆者の中から、今回は比較文
明論の第一人者である伊東氏と、NHK Eテ
レ「100分で名著」にご出演された仏教思想
研究家の植木氏をお招きします。

研究の高度化・細分化が進む中、歴史を
ふり返り、広範な視点で、科学と宗教の関係
を見つめてみませんか。



伊東 俊太郎 (東京大学名誉教授)
「世界宗教と科学～統合へのみち～」



植木 雅俊 (NHK文化センター講師)
「原始仏教と法華経の思想
～物理学から“仏理学”へ～」

コーディネーター **金子 務** (大阪府立大学名誉教授)

金子務 監修
日本科学協会 監

科学と 宗教

対立 と融和のゆくえ

自然の合理性を信じるか
それとも神を信じるか

※(人工知能)の発達期により、
科学と宗教の両者は対立を促進している。
両者の「対立と融和」の歴史を辿り、
未来を展望するための11の視点
監修 金子務 監修
伊東俊太郎 植木雅俊 著

※当日会場で書籍の販売をいたします

5月19日(土)

13:00-16:30 (12:30開場)

会場 **日本財団ビル 1F パウールーム**
(東京都港区赤坂 1-2-2)

定員 **100名** 参加無料(事前登録制)

※席に限りがございますので、事前のご登録を
お願いいたします。
登録サイト <https://fs221.xbit.jp/q229/form/3/>



【問い合わせ】公益財団法人 日本科学協会 事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F
TEL: 03-6229-5360 FAX: 03-6229-5369 E-mail: event@jss.or.jp




日本科学協会出版記念セミナー

Supported by 

科学と宗教

—対立と融和のゆくえ—

5月19日(土)
日本財団ビル 1F パウールーム

プログラム

13:00～
◆主催者挨拶 日本科学協会 常務理事：中村 健治

13:05～
◆記念出版について コーディネーター挨拶：金子 務 氏



かねこ つとむ 1933年生まれ。大阪府立大学名誉教授/国際日本文化研究センタ
ー共同研究員。科学技術史専門。日本科学協会評議員、理事を歴任。著書『アイン
シュタイン・ショック』(1981年、岩波現代文庫 第3回サントリー学芸賞)、編
著『宮澤賢治 イーハトヴ学事典』(2010年、弘文堂)『江戸人物科学史』(2005年、
中公新書)他。

13:20～
◆世界宗教と科学 ～統合へのみち～ 講演：伊東 俊太郎 氏



いとう しゅんたろう 1930年生まれ。東京大学名誉教授。科学史・科学論・比較
文明論専門。著書に『近代科学の源流』(1978年、中央公論社、2007年、中公文
庫)『比較文明』(1985年、東京大学出版会 2013年、新装版)、日本科学史学会特
別賞(2011年)、日本全国学士会アカデミア賞(2014年)、日本数学会出版賞(2015
年)、瑞宝中級章(2009年春)受賞。

<<<休憩 10分>>>

14:40～
◆原始仏教と法華経の思想 ～物理学から“仏理学”へ～ 講演：植木 雅俊 氏



うえき まさとし 1951年生まれ。仏教思想専門。東工大非常勤講師歴任。著書に
『仏教、本当の教え』(2011年、中公新書)。訳書に『梵漢対照・現代語訳 法
華経』上・下 (2008年、岩波書店)『同 維摩経』(2011年、岩波書店)。毎日
出版文化賞、パピルス賞を受賞。

15:40～16:30
◆鼎談と質疑応答 講演者一同

ご質問は、質問票に記入していただき、鼎談開始までに回収BOXまたは係員にご提出ください。
お帰りの際は、アンケートへのご協力をお願いいたします。



実施概要



コーディネーター
金子 務 氏（大阪府立大学名誉教授）



主催者挨拶
中村 健治（日本科学協会 常務理事）



「世界宗教と科学～統合へのみち～」
伊東 俊太郎 氏（東京大学名誉教授）



「原始仏教と法華経の思想
～物理学から“仏理学”へ～」
植木 雅俊 氏（NHK文化センター講師）



鼎談の様子

実施概要

会場設営



受付



書籍販売コーナー



舞台の様子



演台



日本科学協会のパンフレット類



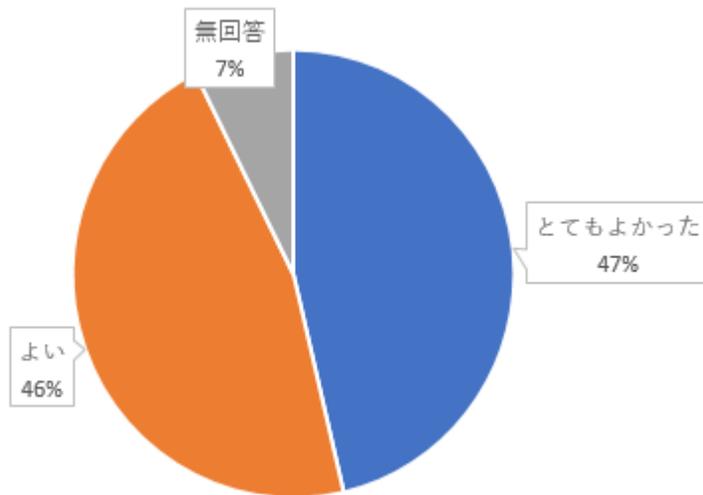
喫茶コーナー

アンケートの結果

ご回答いただきましたアンケートを集計した結果（82件回収/113件）をご報告いたします。

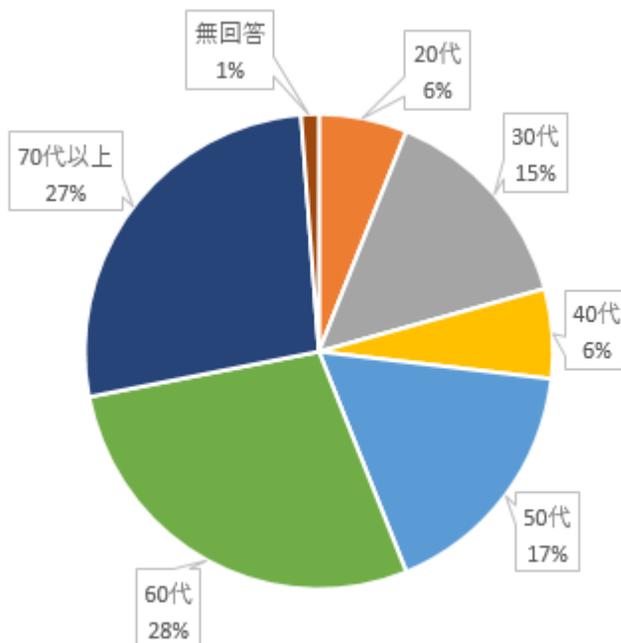
◆ 参加者の評価

セミナーの内容については、「とてもよかった」「よかった」（各38名）の方が93%でした。



◆ 参加者の年齢の内訳

20代5名、30代12名、40代5名、50代14名、60代23名、70代以上22名でした。



アンケートからの考察

ご回答いただきましたアンケートを集計した結果（82件回収/113件）をご報告いたします。

◆ 出席者の傾向

- ① 科学隣接領域研究会は、若手研究者の人材育成の一環として行ってきたが、本セミナー参加募集を一般向けの新聞でも行ったことから、本セミナーではシニア層（60代以上）の出席が多かった。若手研究者の出席者を増やすことは今後の課題である。
- ② 出席者の専門分野は、やや文系の方が多かった。専門分野について「その他」や回答しない方が多くいたことから、研究者以外の一般の方からも興味が高いテーマであると推察する。本会研究助成制度の採択分野は、自然科学系の理系の研究者が多いので、理系の方にも興味を持っていただけるよう工夫をしていく必要がある。
- ③ 7/2に開催した「木魂する科学とこころ」セミナー出席者は18人であり、この活動に継続して注目していただいていることがわかった。

◆ 研究者の人材育成への効果

現在メールでの連絡が可能な過去研究者は、約4,000名。今回のセミナーへの研究者・学生の出席者は15名であった。セミナー開催を通して、研究者の人材育成につながったかといえば、人数的には少なく、まず研究者の出席者を増やすことが今後の課題となる。

申込ルートである、過去助成者へのメールアドレスは、ピンポイントで研究者に連絡できる手段であり、他では無い情報である。本会が研究者に有益な情報を助成後も伝え続けることで、メールの閲覧率が上がり、セミナーへの出席者増加につながると思われる。

◆ 出版記念セミナーを通して

セミナー出席者の3人に1人は書籍を購入していただいている（当日の書籍販売数35冊、事前に書店で入手している方もいることを考慮した場合）。アンケートの中には、今後開催を検討している「科学とアート」を楽しみにしている、今回講演していなかった著者の「幸福学」の講演を聞きたいなどの声もあり、書籍を通して研究会の活動に興味関心をもっていただいていることが分かる。

◆ 今後の取り組みについて

本来、研究者の人材育成を目指した活動であったが、「科学と宗教」出版を通して、広く一般の方にも興味を持ってもらえるテーマであることがわかった。

まずは、アンケートの感想から、「科学」より「宗教」寄りの興味が高いことがわかるので、研究者の出席者を増やすため、「宗教」にスポットを当てるのではなく、「科学+〇〇」という事を意識することにより、「本会ならではの独自の取り組み」という特徴を出し、研究者にも注目されるようにしていきたい。

そして、本会の「科学と社会をつなぐ」というミッションのもとで、セミナーは、一般の方にも分かりやすい研究成果を伝える場としていきたい。

【出席者のコメント（抜粋）】

出席者の90%以上の方が、セミナーについて「とてもよかった」「よかった」と回答、以下の要望等があった。

- ★この科学・哲学・宗教などについてのセミナーは続けてほしい、これからフォーカスされる時代に変わっていくと思います
- ★次回も出席したい、来年も開催してほしい、もっと話を聞きたい（開催希望多数）
- ★もう少しグループなどで議論出来たら面白い
- ★あまりに面白かったので、次回以降は有料化も含めて定期開催をご検討いただけるとありがたい。
- ★前回のセミナーは一人の講演時間が短かすぎ（20分）だったが、今回は話をじっくり聞くことができた。